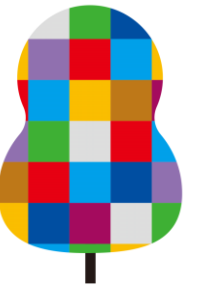


令和5年度

専修学校による地域産業中核的人材養成事業
学びのセーフティネット機能充実強化

「高等専修学校生が社会に定着するための
教育現場の最適化とICT活用による学びの創出事業」

学校法人豊野学園 豊野高等専修学校



文部科学省受託事業について

文部科学省受託事業内容： 学びのセーフティーネット機能の充実強化

「多様な背景を持つ生徒の受け入れの状況等に係る実態調査を行うと共に、高等専修学校の認知度の向上を図るうえでの課題等について調査研究を実施する」事業

本校の実施事業名

「高等専修学校生が社会に定着するための教育現場の最適化とICT活用による学びの創出事業」



「経済的自立と社会的自立の実現」を目的としており、そのためにキャリア教育と職業教育の充実を図り、カリキュラムや生徒にとって学びやすく過ごしやすい学校環境を構築する

生徒の特長



【分野】 服飾家政 生活総合学科

【専門科目】 生活服飾コース(和裁/洋裁)

生活情報コース

生活美術コース

生活介護コース

【生徒数】 164名 ※4月値

【特徴】 不登校経験、障害者手帳、発達障がい精神系内服薬があるなど。何らかの配慮が必要な生徒を受け入れ、高等専修学校として4コースを設けている。

基礎学力の向上と専門的知識技能を習得し、社会的な自立ができるよう、全職員が生徒ひとり一人の特性を理解した上で指導支援を行っている。

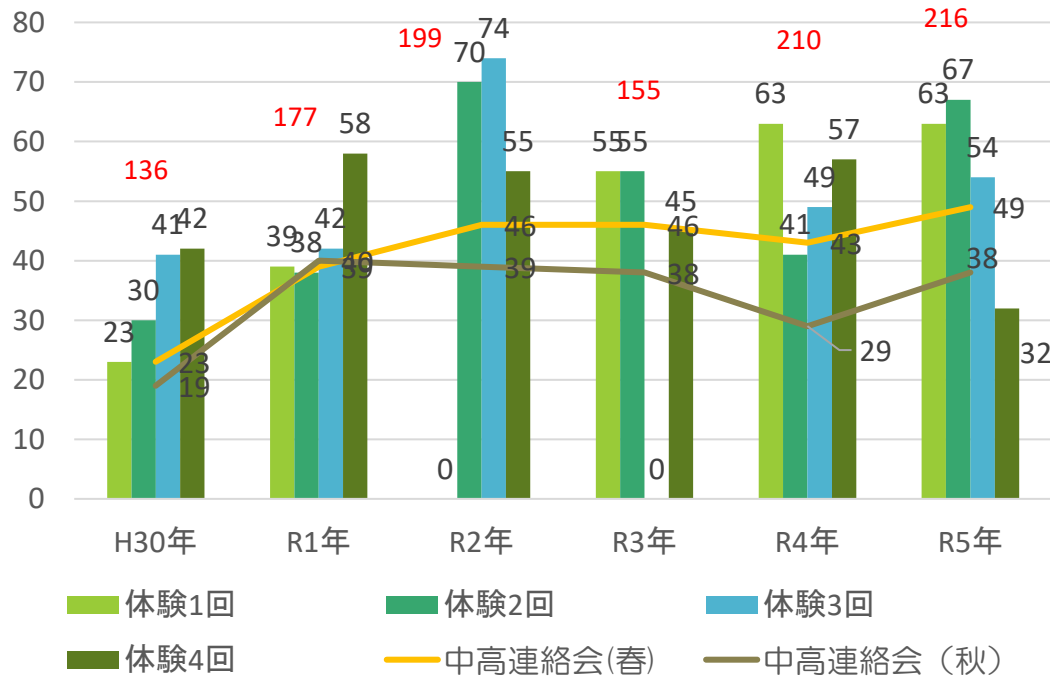
学年別： 支援が必要な生徒の割合

	手帳療育/精神	発達障がい(診断)	精神系服薬	不登校経験
1年(63)	7.1% (4)	17.5% (24)	31.7% (20)	52.4% (33)
2年(52)	7.7% (4)	43.4% (23)	21.2% (11)	53.8% (28)
3年(49)	18.4% (9)	58.0% (33)	32.7% (16)	44.9% (22)
全校(164)	10.4% (17)	48.8% (80)	28.6% (47)	50.6% (83)

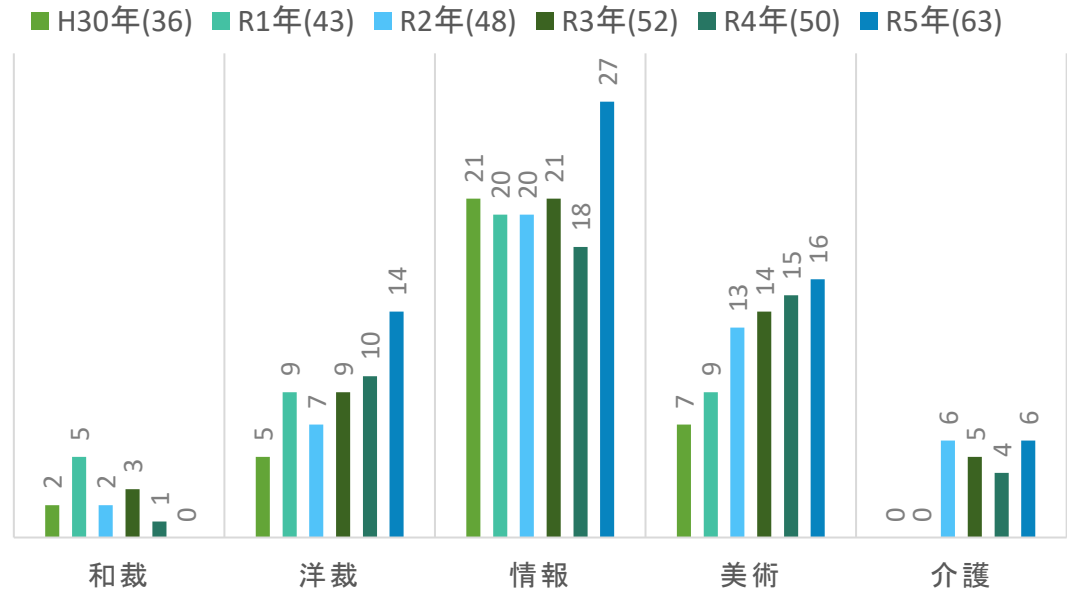
不登校経験、疾患または障がいのある生徒を支援が必要、と想定すると84.8%
(顕著な学力不安をのぞく)

入学希望者と生徒増の推移

体験入学者数と中高連絡会参加校数の変化



入学者数の推移



当該モデルが必要な背景

企業連携

特別授業・講座
専門分野の学び

進路を意識できるきっかけ創出

中学との連携

生徒の理解が深まった

地域・自治体連携

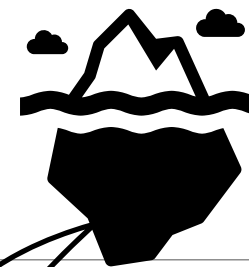
経験値の向上と進路のつながり

医療・福祉連携

ひとりで悩まない
ネットワーク

⇒教育相談システムができた

2018-2020
事業成果



課題



令和2年度 課題

学校体制課題
管理職のありかた
教職員のありかた
不満
カリキュラム
相談しにくい
高等専修の特色の弱さ
企業認知の低さ
離職や家居

働くことができている状態

社会参加している状態

経済的自立

社会的自立

キャリア教育

職業教育の充実

人間関係形成
社会形成能力

自己理解
自己管理能力

課題適応力

キャリア
プランニング力

多様な考えを聴く
正確に伝えるチカラ
他者との協働

- ◇学校のあり方検討
- ◇自己評価軸
- ◇カリキュラム策定

自分ができること
意義を感じる
肯定的な理解

- ◇自己評価軸
- ◇LINE活用
- ◇カリキュラム策定

課題の発見
分析→計画→実行
本来の自分を発見

- ◇学校のあり方
- ◇LINE活用
- ◇自己評価軸
- ◇カリキュラム策定

働く意義を理解する
自らの役割を果たす
生き方・情報の取捨選択

- ◇カリキュラム策定
- ◇自己評価軸
- ◇LINE活用

地域
との連携

企業
との連携

外部機関
との連携

企業
との連携

困りごとを抱え込まない
学校体制づくり

目的とめざす成果：経済的自立と社会的自立

1. 自己の可能性を発見し、自己決定できるようになる
2. 企業が求める学びと生徒をとりまく環境を整備し、社会に定着できる生徒を養成できる機関となる

3つの柱の
活動計画

3. 誰もが相談しやすく
卒業生も支えるICTを用いた
体制づくり

- ①学校版Linyの校内活用
- ②特別支援学校との情報交換による改善

事業評価委員会

事業の効果検証(3回)

1. 学校のあり方・運営検討

①学校体制の構築

とよせん未来会議
職員研修

② 自己成長評価軸の完成

目的

- ・生徒が自己有用感が高まる
- ・生徒の在り様が分かり支援しやすくなる

2. 進路先が求める
カリキュラム策定

- ①専門科目による実証講座
- ②企業人によるキャリア講座

③分かりやすく高等
専修学校が周知できる
HPの作成

- ・アクセシビリティ対応
- ・事業成果物を掲載
- ・高等専修学校の特色が明確
- ・更新、学校運用しやすい

今年度のとりくみ

1. 学校のあり方と運営の検討

- ①職員(学校体制の構築) ②生徒(自己成長評価軸) ③高等専修学校の特色、事業周知ホームページ

2. カリキュラム改革に向けた検討、講座実施 → 専門科目の特色強化の実証講座 / キャリア教育 実証講座

① 専門科目ごとの実証講座

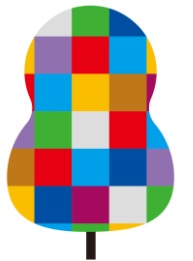
服飾 ※教職員の研修(デザイナー)、情報(ゲームプログラミング「ぷよぷよ」)

美術(武蔵野美術大学:コミュニケーションデザイン、岡学園)、介護(傾聴、フットマッサージ、看取り、企業講話)

② 企業・団体講座 : 各学年の企画で、キャリア教育

3. 誰もが相談しやすく学校で支えるしくみ → 実証運用

LINE公式アカウント(学校版Liny)👉 相談申し込み機能+クラス・部活のチャット+ 学校情報の掲載し可視化



1. 学校のあり方・運営の検討 【目的と内容】

学校環境のアップデート + 生徒の意識向上 + 認知・周知理解

とよせん 未来会議

安心・安全な学校をめざす

- ・ 月1回×ワークショップ方式
- ・ 生徒を主として職員同士の議論
- ・ 職員個人の「当たり前」を相互理解

共通認識
相互理解
組織の効力感

自己評価軸

ロードマップ

成長を生徒自身が感じられる

- ・ 「ファイル」に経験を貯めてゆく→見返せる
- ・ 定期的な振り返り→自己評価、他者承認の場
- ・ 形骸化しないための工夫(教職員)

自己肯定感
自己効力感
自己承認
自己有用感

ホームページ

進路、実習先確保/入学希望者への周知

- ・ 誰もが見やすく迷子にならない
- ・ 学校で管理、運用がしやすくなった
- ・ 高等専修学校の理解と事業成果物の掲載

見やすい
認知向上
中学生・保護者
学校・企業

1. 学校のあり方・運営の検討【成果】



【未来会議の成果】

- ◇職員間の情報共有の頻度が向上した
- ◇学校評価と連動させ効果性を可視化
- ◇「働きがい働きやすさ」が向上している
- ◇生徒の安心につながる取り組みをめざす場となっている

とよせん未来会議

令和5年度 なりたい自分をめざすためのロードマップ(1学年)	
名前	
【3年間でどんな自分になりたいか】	
【4-5月の目標】	
【目標達成のために取り組むこと】	
【仲間からのアドバイス】	

令和5年度 なりたい自分をめざすためのロードマップ(1学年)	
名前	
【4-5月の目標】	
【振り返り】	【自己評価】
【仲間からの声】	
【6-7月の目標】	
【目標達成のために取り組むこと】	

【自己評価軸の成果】

- ◇学年や生徒の実態に即したシートや活用法を検討できた
- ◆職員個人の見立てではなく、生徒の在り様を受けて指導支援ができる
- ◇総括的評価→形成的評価から非認知能力の実感＝成長を感じる
- ◆自らの足跡をたどり他者承認の機会もあることで自己肯定感や自己有用感が得られる

自己評価軸
ロードマップ



【HP作成】

- ◆掲載情報の精査
- ◇見やすさ、分かりやすさの提案
- ◆ターゲットの動線見直しと再設計
- ◇アクセシビリティの対応、考慮

誰にも分かりやすく効果的な
情報発信のためのホームページ



2. 進路先が求めるカリキュラム策定 実証講座紹介

専門科目による企業連携特別講座



キャリア教育のための企業団体による企業人講座



生活美術コース
×武蔵野美大
コミュニケーション
ンデザイン

生活情報コース×eスポーツ連合(企業)
ゲームプログラミング+デザイン

生活服飾コース×現役デザイナー
専門科目職員への研修と実証講座



生活介護コース
×実務者研修資格+専門職強化
看取り+企業講話+
フットハンドマッサージ+腰痛予防

各学年企画

- 1年 卒業生講話
- 2年 専門科目外(声優)講話
- 3年 社会人(卒業生)講話



家庭科

◇ごみ分別、ペット、環境課題



【成果】

- ◇調査結果をもとに専門科目ごと目的に沿いカリキュラムを充実させることができた
- ◇卒業生や憧れから受ける刺激は効果性が高く変わるきっかけになる

【課題】

- ◆校内課題(生徒数、授業回数、教室確保、技能連携)
- ◆校内検討(専門科目検討⇒共通認識⇒広域での検討)

2. 「進路先が求めるカリキュラム策定」 経過と全体像

令和3年、4年

調査
(就職先企業/進学先)



令和3～5年

実証講座

専門科目教科内で策定に向かい
試行錯誤情報のアップデート

キャリア教育

卒業生による
企業人講話

服飾

現役デザイナー
から学ぶ

美術

武蔵野美術大学
コミュニケーションデ
ザイン

情報

ぷよぷよゲームで
プログラミングを学び
PLAY
+
デザイン講座

介護

「実務者研修資格」
+付加価値+離職予防
フットマッサージ/傾聴/
看取り/腰痛予防/
企業講話

「素案」の提案

検討するきっかけとする
「題材」の提案
抜本的な提案から
誰のために

事業評価
委員会にて
検討委員からも
声もいただいた

令和6年

校内検討MTG

「どこ」で「誰が」
『何を基準に』取り扱い
「いつ」変更を目指していくのか
若しくは現行のままなのか

学校課題

専門科目コースの統一/
生徒の急激な増加/技能
連携の縛り/

令和5年

3. 誰もが相談しやすく学校で支えるしくみ



SOSを出しやすい環境にする



既存の「相談体制」を見直し



公式LINE

相談の窓口

- いつでもSOSが出せる/希望を伝えられる
- 担任はSOSを把握しニーズ対応が可能になる

学校情報の一元管理

- 誰かに頼らずとも情報を見て行動、確認
- 保護者も生徒を介し確認できる

カテゴリ、活動別の配信

- (生)役割、連絡などいつでも見返せ確認
- (職)活動・役割別に連絡/意見参集
- 「声」を集められる



- ◆ 定期MTG
- ◆ 臨時対応検討MTG
- ◆ 臨時の関係者会議
- ◆ 情報共有(LINE)
- ◆ 福祉行政連携強化



【成果】

- ◇ 24h相談の申し込みができ抱え込みの予防に繋がっている
- ◇ SOS(相談)が出しやすくなった
- ◇ 支援を求めている生徒の情報が共有しやすくなった
- ◇ 学校情報の可視化 ⇒ 能動的行動
- ◇ 学校生活における「変更」への対応 ⇒ 対処
- ◇ 個別ケースに対し対応がスムーズ

【効果】

- ◆ 副産物として
 - 生徒の能動的な行動につながっている
 - 例1) 次の行動が分からない、確認NG→不参加
 - 例2) 「状況・変化」の告知により見通しがもてることで対処方法を学習→対応→不安払拭→安定

- ◆ 相談希望の生徒の状況把握が可能になり事前共有や対応、事後報告ができた

学校ごとの特色や活動ごとオリジナルのメニューが作成できる

【変化のないもの】 年間行事予定/生徒手帳

【変化のあるもの】 週間予定表/送迎車電車遅延などリアル情報

【カテゴリ】 生徒手帳/相談/クラス/生徒会/おしらせ/SNS

成果

誰もが相談しやすく
卒業生も支えるLINEを用いた
体制づくり

- ◇いつでも相談申し込みが可能
- ◇LINE申し込みする生徒の幅と件数の増加
- ◇教育相談体制が整備されチーム対応
- 👉相談しやすい環境が構築できた

進路先が求める カリキュラム策定

- ◇専門科目で業界の人材育成に根差した講座が実施できた
- 👉活きた実証講座が専門科目と進路において実施された

学校のあり方・運営検討

1. 学校体制の構築

- ◇働きがい・働きやすさの向上
(会議のあり方/管理職の意識改善/環境改善/ICTによる情報共有化/「対話と共有時間」の増量)
- 👉組織の成長・組織の効力感の高まり

2. 自己成長評価軸の完成

- ◇3年生は1学年当時から「自分が好き」と「自身の良さを感じている」数値が上昇している
- ◇教職員が生徒のあり様を知るツールになった
- 👉成長実感の共通ツールへ

3. 分かりやすく高等 専修学校が周知できる HPの作成

- ◇校内オペレーションの軽減
- ◇情報交換がしやすくなる
- ◇学校の特色・強みの明確さ

課題

誰もが相談しやすく 卒業生も支えるLINEを用いた 体制づくり

- ◆「LINE活用・申し込み」への理解に時間を要し様々な工夫を行った
- ◆教職員の理解のばらつき
- ◆他校での試験運用の未実施
- ◆継続にあたり校内で精査が必要

進路先が求める カリキュラム策定

- ◆学校状況等により校内全体で議論の場を設定すること難しさがあった
- ◆技能連携との調整の難しさ
- ◆次年度の校内検討課題として継続

学校のあり方・運営検討

1. 学校体制の構築

- ◆行動指針等が浸透できたかどうか懸念
 - ◆ビジョンの明確さに至っていない
- ◆生徒83%と職員97%と認知の差がある

2. 自己成長評価軸の完成

- ◆全ての生徒が成長を実感できるフォーマットを検証し継続する体制づくり

3. 分かりやすく高等専修学校が周知できるHPの作成

- ◆掲載の移行は未完了のため年度末に切り替えを行う必要
- ◆中学生・保護者にとって効果的か検証が必要

働くことができる状態

社会参加している状態

経済的自立

社会的自立

キャリア教育

職業教育の充実

人間関係形成
社会形成能力

自己理解
自己管理能力

課題適応力

キャリア
プランニング力

相手に合わせる
相手の立場に立ち
考えられるチカラ

- ・職員研修・みらい会議
- ・専門科目の実証講座
- ・社会との接点と経験
(行事・校外学習・生徒会活動・
いばら祭・体験実習・ボラ活動)

やるべきことをやれる
期限を守れるチカラ

- ・ロードマップ
- ・教育相談体制
- ・相談申し込み(LINE)
- ・専門科目の実証講座

課題の発見
分析→計画→実行
本来の自分を発見

- ・SOSを出しやすい環境
(相談申込LINE・職員研修)
- ・ロードマップ
- ・社会との接点と経験
- ・専門科目の実証講座

働く意義を理解する
自らの役割を果たす
生き方・情報の取捨選択

- ・専門科目の実証講座
- ・キャリア教育(企業人講師)
- ・ロードマップ
- ・社会との接点と経験

共通認識
相互理解

自己有用感
自己認知

気づきが
増え変化へ

可能性の
発見

校内情報ICTツール(LINE)

困りごとを抱え込まない
学校体制づくり

目的とめざす成果: 経済的自立と社会的自立

1. 自己の可能性を発見し、自己決定できるようになる
2. 企業が求める学びと生徒をとりまく環境を整備し、社会に定着できる生徒を養成できる機関となる

本事業における参考文献

文部科学省 生涯学習政策局政策課

「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力について」
～今後の学校におけるキャリア教育、職業教育のあり方について～

京都大学×河合塾

「学校と社会をつなぐ調査」(複数回実施) 分析結果報告書

厚生労働省 社会援護局

生活保護受給者に対する就労支援 生活困窮者における「自立の概念」について

須坂市学びのあり方検討会議 信濃教育会 資料「特別支援教育の視点」

ひとり一人の可能性を伸ばす取り組み